

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	高松市立川添小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	2	3	1	15	24
児童数	90	75	71	75	67	85	4	467	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力と豊かな心をもつ児童の育成 算数科における個に応じた指導方法、指導体制の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数科 児童の理解や習熟において個人差が大きい教科であり、14年度の学習状況調査で全県平均を下回った児童の実態から。 14年度より全学年において算数科で少人数授業を実施しており、指導方法、指導体制について一層研究を進めていく必要性があった。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	確かな学力と豊かな心をもつ児童の育成 算数科における個に応じた指導方法、指導体制の工夫
	1 研究の仮説 (1) 少人数学習、習熟度別授業を推進することで、基礎・基本の確実な定着や自ら学び考える力が向上するのではないか。 (2) 「はぐくみ」の時間の有効活用で、個に応じた力を伸ばせるのではないか。 (3) 基本的な生活習慣が定着することによって、学習意欲が高まるのではないか。 (4) 計画的な朝の活動（ドリルや読書）を実施することで、集中して学習に取り組む習慣がつかうのではないか。 (5) 異学年の交流や、読書活動を進めることにより、人間関係調整力や豊かな感性が高まるのではないか。 2 研究の内容・方法 (1) 個に応じた学習指導 少人数学習、習熟度別授業の改善 ア 「数と計算」の領域を中心とした授業研究 イ 効果的な習熟度別学習集団の編成 ウ 独自の単元指導計画作成 エ 指導と評価の一体化を図る評価 「はぐくみ」「ドリル」の時間の有効活用 ア 補充発展学習 イ ドリル作成 (2) 学習意欲を支え高めるための学習・生活習慣の育成 基本的な生活習慣の育成 ア 実態の分析と児童・保護者の意識の向上を図るための啓発活動 異学年交流、読書活動の推進 ア 構成的グループエンカウンターを取り入れた異学年交流 イ 読書環境の整備

平成 16 年 度	<p>確かな学力と豊かな心をもつ児童の育成 自ら学び考える力を育てるための指導方法の工夫</p> <p>1 研究の仮説 (1) 少人数学習、習熟度別授業を推進することで、基礎・基本の確実な定着や自ら 学び考える力が向上するのではないか。 (2) 計画的な朝の活動（ドリルや読書）を実施することで、集中して学習に取り組 む習慣が付き、「はぐくみ」の時間の有効活用で、個に応じた力を伸ばせるの ではないか。 (3) 基本的な生活習慣が定着することによって、学習意欲が高まるのではないか。 (4) 道徳教育や総合的な学習の時間のマスタープランを作成し、実施することで自 己の生き方を見つめることができるのではないか。 (5) 異学年の交流や、読書活動を進めることにより、人間関係調整力や豊かな感性 が高まるのではないか。</p> <p>2 研究の内容・方法 (1) 個に応じた学習指導 少人数学習、習熟度別授業の改善 ア 思考力、表現力を高めるための授業研究 イ 独自の単元指導計画作成 「はぐくみ」「ドリル」の時間の有効活用 ア 補充発展学習 イ ドリルの実施 ウ 漢字検定の実施 (2) 学習意欲を支え高めるための学習・生活習慣の育成 基本的生活習慣の育成 ア 児童・保護者の意識の向上を図るための指導及び啓発活動 異学年交流、読書活動の推進 ア 構成的グループエンカウンターや豊かな体験を取り入れた異学年交流 イ 読書指導の充実</p>
--------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 研究推進体制

実践研究組織

少人数学習、習熟度別授業の推進	授業研究部会
はぐくみの時間の有効活用	はぐくみドリル部会
基本的生活習慣の定着	基本的生活習慣部会
朝の時間（ドリル・読書）の充実	現職教育委員会
異学年交流（ふれあいの時間）や読書指導の推進	ふれあい部会

少人数指導

	少人数担当 A		少人数担当 B		専科・少人数担当 C	少人数担当 D		少人数担当 E	
学年	1 年		2 年		3 年	3 年	4 年	5 年	6 年
学級数	3		2		2	2	2	2	3
教科	国語	算数	国語	算数	国語	算数	算数	算数	算数
週時数	1 1	1 2	1 4	1 0	1 0	1 0	1 0	6	1 2

- 1 少人数担当者会...算数科授業の研究を推進する。
- 2 少人数打ち合せ会...金曜日に少人数担当と各学年団で次週の予定を話し合う。
- 3 週2回「ドリルタイム」と放課後の補充発展学習「はぐくみ」は、担任、少人数担当、専科で指導を行う。
- 4 全学年が指導者を招いた研究授業を行い、全教員の指導力向上に努める。
- 5 児童理解のための研修をもち、職員間の共通理解を図る。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

1 少人数学習、習熟度別授業の改善

学習集団を柔軟に編成し、それぞれの編成に応じた指導方法を考えた。また、単元指導計画、ガイダンス、指導に生かす評価を研究するとともに全学年に1教室少人数学習室をつくり学習環境の整備に努めた。

学年 単元	授業についての主張点	指 導 (指導主事・香川大学附属小教員)
4年 「少数」	<ul style="list-style-type: none"> ・方法別コース 個性や能力に応じる。 ・習熟度別コース(1学級2コース) 計算の習熟を図る。 ・単元指導計画 算数的活動や交流の場を工夫 ・個人内評価 毎時間の児童の様子とノートの自己評価を支援に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・的確なコース選択ができる力を付ける必要がある。 ・毎時間の評価基準を作成する必要がある。
1年 「3つの かずのけいさん」	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別コース(1学級2コース) 基礎コースでは、具体操作を重視し個別指導・繰り返し学習 充実コースでは学び合いを重視 ・ガイダンス 的確なコースが選択できる。 ・学習環境づくり 既習事項をフィードバックできる掲示 ・自己評価カード 個別指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・念頭操作ができるように指を使わないで計算ができるようにする。 ・単元全体を習熟度別学習にすることも可能。その際、目標はコースによって変わる。
2年 「たし算とひき算のひっ算」	<ul style="list-style-type: none"> ・方法別コース 操作活動をていねいに支援する。 ・習熟度別コース(1学級2コース) 計算の習熟を図る。 ・単元最後に課題別コースを設定 ・筆算シート作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場では、「分からない」と素直に言える子を育てると説明するものが工夫する。 ・数学的な考え方を身につけさせること、一般化して適応化させる。
5年 「分数」	<ul style="list-style-type: none"> ・レディネステスト、ガイダンス 単元の見通しをもち自分に適したコース選択ができる。 ・単元を通した習熟度別コース(2学級3コース、進度差はなし) 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別学習は、コースのねらいを明確にする。 ・遅れがちな子に対する指導に重点を置く。 ・コースは途中で変更が可能に ・習熟度別学習を保護者に理解してもらう手だてを工夫する。
3年 「かけ算の筆算」	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通した、習熟度別コース(2学級3コース、進度差がある) ・コースにあった支援 個に応じたヒントカード、具体操作、繰り返し学習、発展的な学習など 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体操作は、考えるため、説明するため、一般化するため、それぞれのコースにあった取り入れ方をする。 ・評価のあり方を課題とし、授業中の評価を大切に。

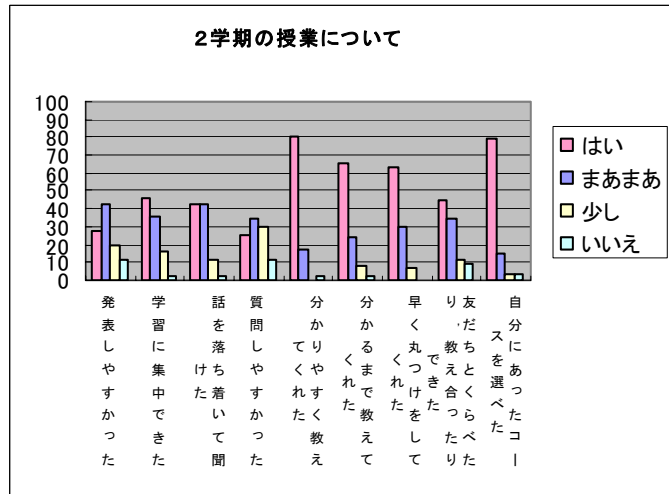
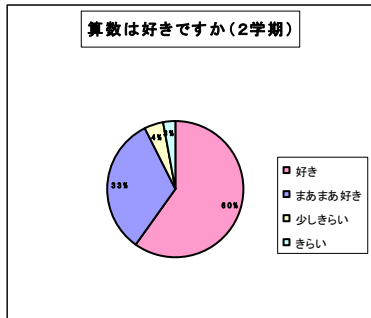
毎時間の「ねらい・学習活動」「評価基準」「児童の意識の流れ」「指導形態」が一体となった単元指導計画を全学年「数と計算」の領域で作成。

ガイダンスに生かせる自己評価カードを全単元作成。

計算力を高めるために児童の実態にあったドリルを作成し、年間計画のもと実施。

2 授業についての児童の意識調査及び成果

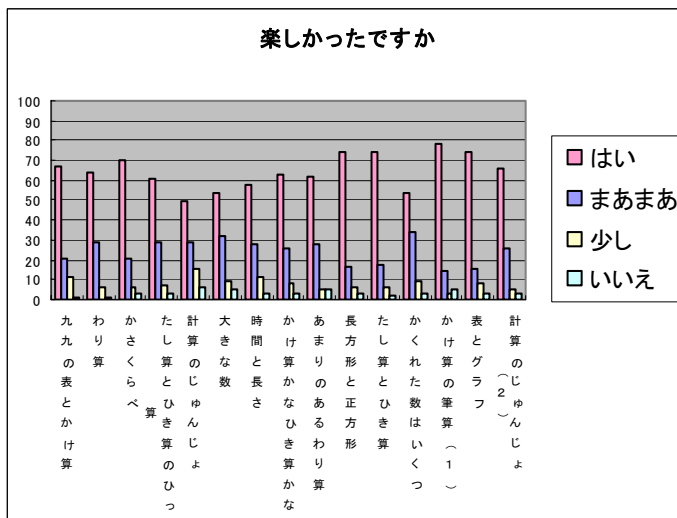
全学年の児童に毎学期同じ内容のアンケートをとり、指導に生かしてきた。ここでは、第3学年の意識調査から実践の成果を検証していく。



「好き」「まあまあ好き」と答えた児童の割合は2学期93%で1学期より2ポイント高くなった。

授業についての、意識調査ではどの項目も1学期より「はい」「まあまあ」と回答した児童の割合が少し高くなった。

なかでも、「分かりやすい」「自分にあったコースを選べた」と感じている児童の割合が高い。しかし、下位5項目に注目すると今後、「交流の場の設定」「分からないことを質問できる環境」「学び合いのスキル」について研究していく必要がある。さらに、学習に集中して、落ち着いて聞く態度が身につくよう、授業改善のみならず、基本的な生活習慣の育成にも努めなければならない。

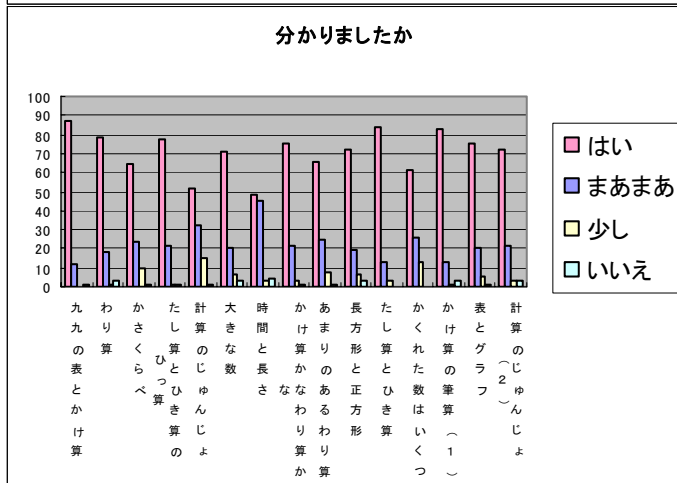


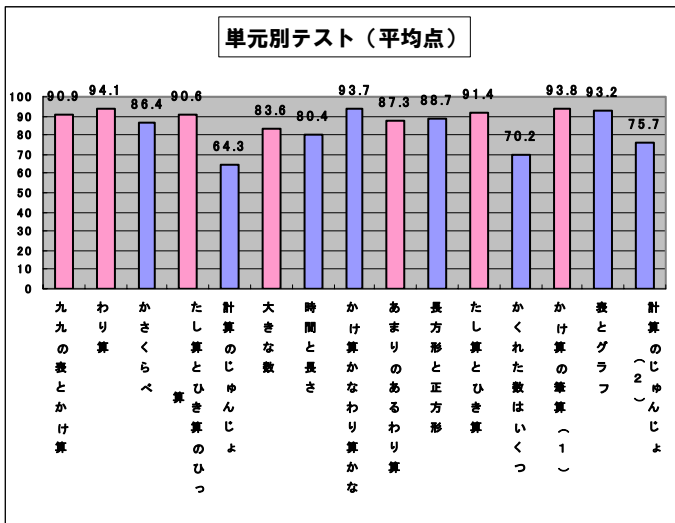
左のグラフは、単元ごとに「楽しかったか」「よく分かったか」をたずねた結果である。

児童は、毎時間振り返りカードに学習に対する分かりり度や満足度をマークで表したり、分かったことや楽しかったこと、難しかったところなどを短い文章で記述したりしている。また、児童同士の相互評価も取り入れている。

これらの活動を通して、児童の自己評価力がついてきており、教師が行っている授業時の評価である個人カルテとも一致してきている。また、自分にあったコース選択ができるのも自己評価力の高まりだと考えられる。

左記と次ページの「単元別テスト」の結果から「楽しい」「分かる」「できる」は大きく関連していることが分かる。「楽しい」「分かる」で「はい」「まあまあ」の回答率が高い単元では、平均点も高くなっている。また、今年度指導に重点を置いた「数と計算」の領域では、平均





点が高く成果がよく表れている。なかでも、2学級3コースに分け、進度差のある習熟度別学習で取り組んだ「かけ算の筆算(1)」の単元では「楽しかったか」の質問に「はい」と回答した割合が2学期間で最も高く、平均点も93.8点と高かった。

ただ、抽象的な思考を問われる学習内容にはつまずきや苦手意識がみられる。

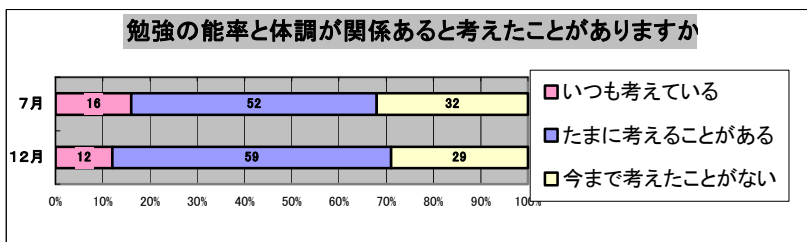
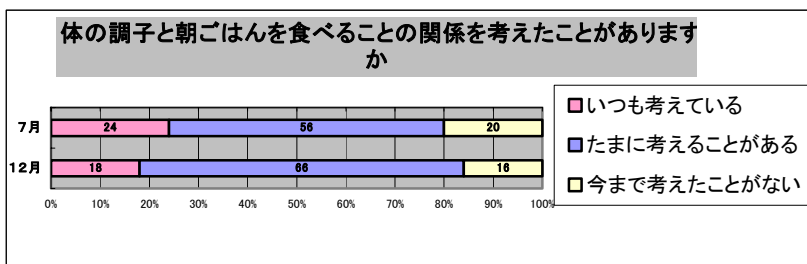
今年度の「学ぶ意欲」「知識・技

能」「学び方」に加え、さらに「思考力」に重点を置いた指導が今後必要である。

3 基本的生活習慣の育成に関する取り組みと実態調査

- (1) 実態調査（7月、12月に実施）
就寝時刻、起床時刻、朝食の摂取等についての課題を探る。
- (2) 生活振り返りカードの活用（9月、12月に実施）
新学期の生活リズムを整えることをねらいとする。
- (3) 学校保健委員会（9月末実施）
3年生以上と保護者が対象。実態調査の報告と講師による「やる気をおこす生活」と題した講演。その後、「やる気パワーアップ大作戦」強化月間を設け実践につなぐ。
- (4) 常時活動
児童への日常指導
保護者への啓発・・・学校だより・団だより・学校保健委員会だより

7月と12月に行った実態調査の結果を比較してみると、睡眠時間と体調、朝食の摂取と体調、勉強の能率と体調の関係については、「今まで考えたことがない」と回答した児童の割合が減少している。これは、取り組みの成果ともいえるが、実際に就寝、起床、朝食の摂取に関する実態の改善は数値の上からはほとんどみられなかった。朝食摂取については、8割で全国平均より1割以上低めの結果がでた。早く寝る、十分な睡眠をとる、早起きをする、朝食をとるといような健全な基本的生活習慣は相互に関連性のあるものである。そのため、一度身に付いた習慣を改善するのは容易



なことではない。しかし、関連があるだけに一つ重点的に指導することによってその波及効果も考えられる。今後、さらに指導方法を工夫し、継続的に指導していく必要がある。そして、保護者の理解と協力につながる啓発方法も今以上に考えていかななくてはならない。

2. 今後の課題

- 1 児童の実態から表現力、思考力を重視した算数科の授業改善をし、発展学習について教材開発をしていく必要がある。
- 2 考えが広がり深まる学び合いができるようになるために、学年相応の学び合いのスキルを身につけさせたい。
- 3 学習・生活習慣の育成については、さらに意識を高め実践につながる指導のあり方を継続研究していかなくてはならない。
- 4 豊かな体験の場及び自己の生き方を見つめ考える機会はなお充実したものにしていきたい。そこで、カリキュラム全体の中での位置づけから見直しを図る必要がある。

学力等把握のための学校としての取り組み

- 1 県学習状況調査（4月）の結果を分析し学年毎に重点課題をあげ、実践研究に反映させてきた。次年度の調査結果で成果を検証する。
- 2 県版テストの得点を観点別に集計し達成度を把握している。児童の自己評価カードを活用し、個人内評価に生かした。また、単元毎に学習の定着度を把握するためのテストを実施し、補充・発展学習を進めた。
- 3 学期毎に「学習に対する関心や意欲・満足度」や「基本的な生活習慣に関する実態や意識」に関して児童にアンケートを行い実態を調査分析している。
- 4 保護者には、授業の公開や学校だより、学年だよりで日頃実践状況を積極的に周知して理解を求め、3月には「児童の学習の様子や授業について」のアンケートを実施し保護者の意見や児童の実態を把握する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 第2回学力向上フロンティアスクール東讃地区協議会で報告
- 2 研究紀要を作成（希望校に配布）
- 3 ホームページに研究実践を掲載（3月末）
- 4 16年度は研究授業を他校に案内し公開する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	